

## 徳島県産クジュウノガリヤス *Calamagrostis*×*microtis* (Ohwi) Ohwi (イネ科) についての雑記

茨木 靖<sup>1</sup>

[Yasushi Ibaragi<sup>1</sup> : Taxonomic notes on *Calamagrostis*×*microtis* (Ohwi) Ohwi (Gramineae)  
in Tokushima Prefecture]

キーワード：ノガリヤス属，分類学的再検討，植物誌

クジュウノガリヤス *Calamagrostis*×*microtis* (Ohwi) Ohwi は、コバナノガリヤス *C. adpressiramea* Ohwi とキリシマノガリヤス *C. autumnalis* Koidz. の雑種とされる多年生イネ科草本である (Tateoka, 1970)。本種は、発表当時、同様に火山性の荒原に生育し、九州の九重山、阿蘇山、霧島山に産するキリシマノガリヤスの変種 *C. autumnalis* Koidz. var. *microtis* (Ohwi) Ohwi とされ、九州の九重山にのみ産する固有種とされてきた (Ohwi, 1931; 長田, 1989)。また、本種は、大分県のレッドデータブックでも、九重火山群の由布・鶴見火山群にしか見られず、分布域が狭いことや土地の改変・遷移、踏圧などで絶滅の危険性が高いことから IB 類として扱われている (大分県, 2014)。

一方、徳島県植物誌には、木沢村川成峠申太郎山に本種が生育している旨記録がある (阿部, 1990)。また、上記の申太郎山に加え、剣山にもクジュウノガリヤスが存在する旨の記録もある (徳島県, 1971)。本種が徳島県に存在するとすれば、上記のような実情から、それは大変貴重な記録と言える。しかしながら、県産の本種については、分類学的な異論もあり、徳島県版のレッドデータブックやレッドリストでは、採り上げられていない。そこで、今回本県産のクジュウノガリヤスとされる植物について、再検討を行うこととした。その結果、多少の知見を得たのでここに記録したい。

当館には、徳島県産のクジュウノガリヤスとされる標本が三点ある。これらの内二点は、阿部 (1990) の徳島県植物誌の根拠となった証拠標本と考えられるもので、それぞれ徳島県那賀郡木沢村川成峠申太郎山 (現：那賀郡那賀町檜戸丸) で、1968 年 8 月 4 日に採集されたもの (阿部近一 31042, TKPM-BSP200333) と、1974 年 8 月

6日に採集されたもの (阿部近一 50537, TKPM-BSP 200334 : Figs. 1, 2) である。また、もう一点は、木村晴夫によって 1961 年 8 月 5 日に徳島県美馬郡一宇村矢筈山 (現：美馬郡つるぎ町) で採集された標本 (木村晴夫 s. n. TKPM-BSP000230) である。この内、阿部近一 31042 については、標本を見ると、ラベル上に、“*C. tashiroi* Ohwi



Fig. 1. 徳島県産クジュウノガリヤス (徳島県那賀郡木沢村川成峠申太郎山, 阿部近一 50537, 1974 年 8 月 6 日, TKPM-BSP200334).

2014 年 11 月 28 日受付, 12 月 26 日受理.

<sup>1</sup> 徳島県立博物館, 〒770-8070 徳島市八万町文化の森総合公園. Tokushima Prefectural Museum, Bunka-no-Mori Park, Hachiman-cho, Tokushima, 770-8070, Japan.

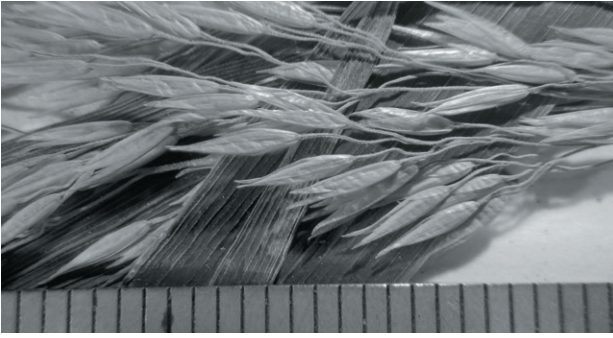


Fig. 2. 花序の拡大。一目盛りは、1mm：証拠標本（徳島県那賀郡木沢村川成峠申太郎山，阿部近一 50537，1974年8月6日，TKPM-BSP200334）

と近似」との書き込みが見られる。また、採集者の阿部本人により、最初に「ノガリヤス一種」と同定されたものが、後にアオイワノガリヤス、そして最後にクジュウノガリヤスと同定が改められたことがわかる。また、もう一点の阿部近一 50537については、標本上に残された新聞紙上の記述で、“葉広く脈明瞭 クジュウノガリヤス？”との記載があり、阿部がこの点を同定の根拠として重視したことが伺える (Fig. 3)。

そこで、これらの標本について、その分類形質を再検討することにした。クジュウノガリヤスの識別形質として、Ohwi(1931)は、原記載の中で「Foliorum laminae convolutae basi minus auriculatae, ligula plerumque product, panicula contracta lanceolata densa」と記述している。すなわち“葉身が内巻し、基部にわずかに葉耳があること、葉舌は、多くは伸張する、そして円錐花序は緊縮し細く皮針形をなす”ことをその特徴として挙げている。また、長田(1989)は、近縁なキリシマノガリヤス *C. autumnalis* Koidz. とあわせて、「火山の砂礫地にはえる。目立って厚い葉身とその上面に突出する多くの葉脈、(中略)護穎の芒は背面下部から出て小穂外に伸び出さず、基毛は護穎の1/2長、直立して隙間のない円錐花序などが特徴」としている(長田, 1989)。また、両者の違いについては、クジュウノガリヤスは、九重山の特産であり、葉身の基部は、ほとんど耳状に張り出さず、花序の枝がざらつくなどの点を重視している(Koyama, 1987; 長田, 1989)。

これらの識別形質に基づいて、当館蔵の三点の標本を再検討してみたい。小穂のカルスの毛が護穎の1/4長、芒は護穎の基部から生える。包穎は花後閉じ、表面は平滑。葉舌は短く1.5mmほど、葉身の基部には明らかな葉耳がある。花序は散開し、枝はざらつく。葉身は桿の全体に着いて薄く、葉脈は浮き出ない。以上の形質は、クジュウノガリヤスの形質の多くに該当せず、本県の山間部に分布するシコクノガリヤス *C. tashiroi* Ohwi subsp. *sikokiana* (Ohwi) T. Tateoka の形質と一致している

(Tateoka, 1985)。

また、今回の調査にあたって、比較のために京都大学(KYO)ならびに東京大学(TI)所蔵のクジュウノガリヤスの標本を調査した。Fig. 4は、本種の模式標本であるが、この図からもわかるように、明らかに花序が閉じており、Ohwi(1931)の記載と一致する。また、葉に関しても長田(1989)の記述にあるように、分厚く明瞭に葉脈が盛り上がり、明らかに本県産のものとは異なっていた (Fig. 5)。阿部(1990)は、葉脈が明瞭であることをひとつの根拠として、本県産の植物をクジュウノガリヤスと考えたと思われるが、葉の質、脈の盛り上がりなどの程度などが全く異なるものである。

以上の結果から、本県産のクジュウノガリヤスとされる標本は、いずれもクジュウノガリヤスではなく、シコクノガリヤスであると考えられる。

なお、剣山に本種が生育するという記録については、徳島県立博物館標本庫(TKPM)所蔵の標本を調査したが、クジュウノガリヤスに該当する標本は見いだせなかった。このため、この記録についての確認はできなかった。また、阿部近一氏が1974年8月6日に那賀郡木沢村川成峠で採集した標本(阿部 50536, TKPM-BSP 200339)には、同定の過程でクジュウノガリヤスと考えていたことを示す、書き込みが残されている。しかし、この標本も検討したところシコクノガリヤスであることが判明した。

以上のように、県産クジュウノガリヤスの実態について検討したが、徳島県内に産するノガリヤス属の植物については、いまだ未解明の部分も多く、引き続き分類学的検討を行う必要がある。

本県産標本：徳島県那賀郡木沢村川成峠申太郎山 Tokushima Pref., Naka-gun, Kisawa-son, Kawanari toge, Mt. Shintaro (阿部近一 31042, 1968年8月4日, TKPM-BSP 200333)；徳島県那賀郡木沢村川成峠申太郎山 Tokushima Pref., Naka-gun, Kisawa-son, Kawanari toge, Mt. Shintaro (阿部近一 50537, 1974年8月6日, TKPM-BSP 200334)；徳島県美馬郡一宇村矢筈山 Tokushima Pref., Mima-gun, Ichiu-son, Mt. Yahazu (木村晴夫 60, 1961年8月5日, TKPM-BSP000230)。

クジュウノガリヤス比較標本：大分県久住山白口山 Oita Pref., Mt. Shirakuchi in Kuju mountain range (山崎敬 Oct. 17, 1955, TI)；Kyushyu, Kuju Mountain Range, Mt. Daisen, on route from Bogatsuru to the summit (Tsuguo Tateoka 6814,

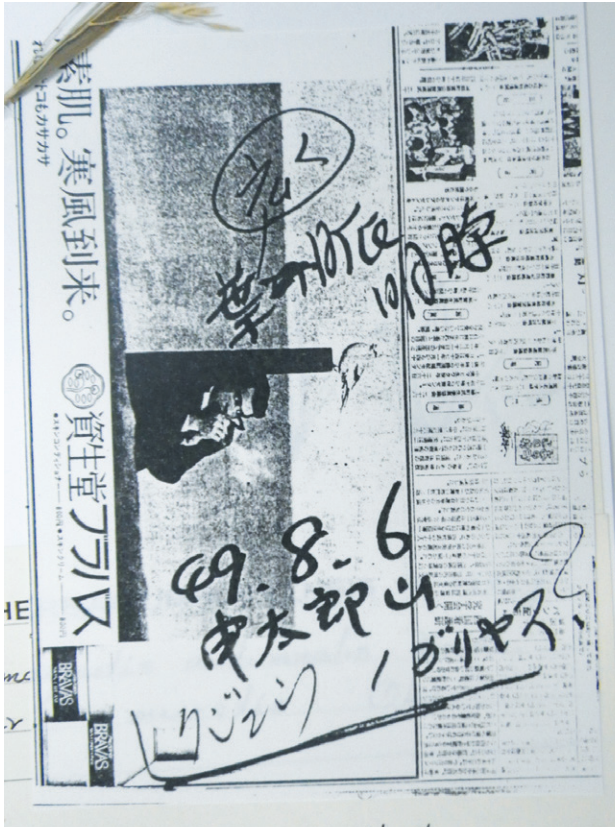


Fig. 3. 標本上に残された新聞紙 (徳島県那賀郡木沢村川成峠申太郎山, 阿部近一 50537, 1974年8月6日, TKPM-BSP200334).



Fig. 4. クジュウノガリヤス模式標本 (Oita Pref., Mt.Kurodake., Z. Tashiro s.n., 19 Aug. 1916, KYO-00078540).

Sep.16, 1969, TI) ; Kyushu, Kuju Mountain Range, Mt.Daisen, on route from Bogatsuru to the summit. 1500m alt. (Tuguo Tateoka 6807, Sep.16, 1969, TI) ; Kyushu, Oita Pref., Kuju Mountain Range. Chojagahara. 1060m alt. roadside. (Tuguo Tateoka 6843, Sep.16, 1969, TI) ; Kyushu, Oita Pref., Kuju Mountain Range. Chojagahara. 1080m alt. roadside. (Tuguo Tateoka 6837, Sep.16, 1969, TI) ; Oita Pref., Mt.Kurodake in Kuju mountain range. (Z.Tashiro s.n., 19 Aug.1916, KYO-00078540, Holotype ! ) ; Oita Pref., Mt.Yubu (Z. Tashiro, s.n., 05 Aug.1925, KYO), Oita, Mt.Daisen in Mts Kujusan. (Z.Tashiro, s.n., 23 Sep.1922, KYO) ; Kyushu : Oita Pref., Kuju mountain range, Chojagahara, 1050m alt. road side. (T.Tateoka 6846, 16 Sep.1969, KYO) ; Kyushu : Oita Pref., Kuju mountain range, Chojagahara, 1060m alt. road side. (T.Tateoka 6842, 16 Sep.1969, KYO) ; Kyushu : Kuju mountain range, Mt.Kuju, en route from Hokke spring to Sugamori, 1380m alt. (T. Tateoka 6817, 16 Sep.1969, KYO) ; Kyushu : Kuju mountain range, Mt.Daisen, en route from Bogatsuru to the summit, 1450m alt. (T.Tateoka 6813, 16 Sep.1969, KYO) ; Kyushu : Kuju mountain range, Mt. Daisen, en route from Bogatsuru to the summit, 1550m alt. (T.Tateoka 6811, 16 Sep.1969, KYO) ; Kyushu : Kuju mountain range, Mt. Daisen, en route from Bogatsuru to the summit, 1430m alt. (T.Tateoka 6801, 16 Sep. 1969, KYO).

本研究にあたり、徳島植物研究会会長の木下覚氏には、本種の研究にあたっての貴重なご意見をいただきました。また、東京大学総合研究博物館(TI)および京都大学(KYO)の各標本庫の皆様には、標本の閲覧にあたり便宜を計っていただきました。これらの方々に、ここに記して謝意を表します。

### 引用文献

- 阿部近一. 1990. 徳島県植物誌. 580 p. 教育出版センター, 徳島.
- Koyama, T. 1987. Grasses of Japan and Its Neighboring Regions, an Identification Manual. 570 p. Kodansha Ltd., Tokyo.
- 大分県. 2011. レッドデータブックおおいた2011—大分県の絶滅のおそれのある野生生物. 249 p. 大分県.
- Ohwi, J. 1931. Symbolae ad floram asiae orientalis. Bot. Mag. Tokyo, **45** : 183-197.
- 長田武正. 1989. 日本イネ科植物図譜. 759 p. 平凡社, 東京.

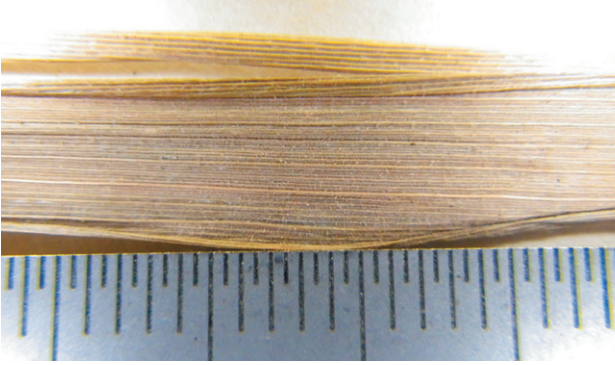


Fig. 5. クジュウノガリヤスの葉の表面 (Oita Pref., Mt.Kurodake., Z. Tashiro s.n., 19 Aug. 1916, KYO-00078540).

Tateoka, T. 1970. Recognition of *Calamagrostis* × *microtis* (Gramineae). Bull. Natn. Sci. Mus. Tokyo, **13**(2) : 275-290.

Tateoka, T. 1985. A taxonomic study of the *Calamagrostis tashiroi* Group (Poaceae). Bot. Mag. Tokyo, **98** : 181-191.

徳島県. 1971. 剣山・県民の森総合学術調査報告書. 270 p. 徳島県.